

# 日本災害看護学会先遣隊 台風第19号活動報告（長野県）

2019年10月17日(木)

活動メンバー:小原真理子・高田昭彦・長谷川美智子

## 1. 活動の概要

活動日時:令和元年10月17日(木)8:00~18:00

活動場所:長野県長野市

支援目的:先遣隊活動

活動日の状況:台風第19号の被災後、6日目

天気は晴れ、最高気温20度、最低気温9度 湿度43%-61%

千曲川の堤防が決壊した長野市穂保地区では16日、24時間態勢で排水作業を進め、一時的9.5km<sup>3</sup>に及んだ浸水地域の99%以上が解消した。国交通省は同日夜、千曲川の堤防の決壊部分に長さ約70m、幅約5mの土を盛る応急工事が17日中に終わる見込みだと発表した(2019年10月17日読売新聞)。また、国土地理院は千曲川付近の浸水状況について推定した。深さ4.3mであった。そして、長野市穂保地区の堤防決壊現場は、国道沿いに長さ約5kmにわたって浸水し、最も深いところは、北陸新幹線の車両が水没した「長野新幹線車両センター」の北側付近とみられている。北陸新幹線の金沢―福井間の直通運転再開は1~2週間かかる予定である。

## 2. 活動の実際

時間	活動の内容
8:00	清泉女学院集合出発
8:20	・長野市市役所到着
9:00	○長野市市役所ミーティング参加 進行役:長野市保健所、長野保健福祉事務所
10:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災後6日目、DMAT隊撤退にむけ県の災害医療コーディネーターサポートの紹介 長野県の県民性なのか、現状の確認に向かうと「何とかしのいでいます」という返答が多く聞かれる。現状から災害対応が長期化することが考えられ、支援者は被災された方が大丈夫でないという認識をもち関わっていく必要性を共有した。そして、地元住民のかたが被災者であるとう認識をもって、外部支援を受け入れについて要望あり。</li> <li>・会議名の検討 会議参加者からコンセンサスを得て「長野圏地域医療圏災害保健医療調整会議」と決定。 組織参画チーム確認:DNSO・JRAT・JPAT・日赤救護班追加</li> <li>・避難所巡回診療担当割の検討 災害急性期から亜急性期にフェーズが移行するに伴い、外部支援者の派遣状況に変化がある。 支援内容が過重とならないように巡回診療担当割を再検討が行われる。</li> <li>・避難所アセスメントシートの検討 アセスメントシート項目が多いため、毎日書き換えるのではなく、変更内容を赤で修正する方法を継続 今後保健師チームの介入があるので現状の用紙で行い、保健師チームに用紙変更について検討をしていただく。 避難所アセスメントシートの提出先が現段階で決まっていないため、チームに連絡がある。</li> <li>・次回ミーティング 夕方の開催は中止、明日9時から開催</li> </ul>

	<p>○長野市保健師ミーティング参加 進行役:保健師</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野市保健所の活動確認 本日、長野県・愛知県・富山県・豊田市より厚生労働省から派遣される保健師が到着する。 明日から避難所や自宅で片づけを行っている方などを中心に聞き取り調査が開始。 避難所の支援団体と協力して聞き取り調査を行っていきたい。</li> <li>・夜間の避難所の巡回体制の変更 本日より当直制は終了してほしい。 支援者より避難所を利用されている方は日中自宅に戻られ作業を行っているため、身体上の変化を聞き取るためには 19 時から 21 時程度までの常駐は必要との意見あり、柔軟に対応するように指示あり。</li> <li>・避難所巡回診療担当割変更に伴う変更内容の確認</li> <li>・次回ミーティング</li> </ul> <p>本日 16:00 開催 明日 8:30開催</p>
<p>10:30 15:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊野区事務所に向かう、その後、豊野西小学校に訪問するように指示があり移動</li> <li>・豊野西小学校到着</li> </ul> <p>長野市の避難所担当の方に挨拶、日本災害看護学会の活動目的を説明し、避難所生活について現在支援に入っている AMDA と協力体制をとるように指示あり。</p> <p>避難所の状況避難者数(昼)239名、(夜)228 名、車中泊人数不明、性別・年齢構成は不明、スペース適度、【組織・活動】代表者名 市役所の方・校長、連携体制 対面・携帯電話、自主組織 なし、外部支援 あり、ボランティア なし、救護所 なし、巡回診療 なし、地域医師との連携 なし、避難者への情報伝達 ホワイトボード 掲示板 マイク【ライフライン】電気 使用可・ガス 使用可・水道 使用可・飲料水 使用可・固定電話 使用可・携帯電話 使用可・対応 空白【設置状況と衛生面】洗濯機 なし・冷蔵庫 あり、照明 あり、調理設備 なし、トイレ 使用可、トイレ清掃 普通、手洗い場 あり、風呂 なし、喫煙所 あり、対応 喫煙分煙なし【生活環境の衛生面】清掃状況 空白、床の清掃 なし、ごみ収集場所 あり、履き替え あり、空調管理 適、粉塵 なし、生活騒音 不適、寝具乾燥対策 なし、ベッド対策 なし、ベッド収容場所 なし、食事回数 3 回、炊き出し あり、残品処理 適、対応 ボランティアの希望あり調整を、車 160 台 ベッドの希望あり いびき対策で 1 部屋利用【配慮を要する人】高齢者 不明、55 歳以上 空白、介護認定者 空白、妊婦 空白、妊婦健診受診困難者 空白、産婦 空白、乳児 空白、幼児・児童 空白、体調不良者数 0、知的障がい者数 空白、発達障がい者数 空白(10 月 17 日配布 長野圏地域医療圏災害保健医療調整会議資料より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所支援チームミーティング参加</li> </ul> <p>小原理事が AMDA の活動者と遭遇し、豊野西避難所の現状の課題と解決状況のチームミーティングに参加。ミーティングの中で支援看護師が本日夕方に戻るため、明日・明後日からの支援看護師の派遣は困難とのこと、小原先遣隊の提案で日本災害看護学会の先遣隊が参加することになる。そこで、現在、避難所支援を行っている看護師二人のアセスメントをもとに、介入の必要な方のリストをもとに赤タグと考えられる内服薬(降圧剤、喘息の吸入薬)の残薬がない方、インスリン注射+内服中の方、血糖値が未治療で高い方の申し送りを受ける。また、施設構造の説明を受けながら、日常生活動作が不安な方の申し送りを受けた(写真1. 2)。</p> <p>2 名の看護師での対応であり、十分な情報収集が出来ていないということであった。</p> <p>☆アセスメント項目・疾患・VS、薬剤情報、医療班の対応・調整、ベッド、弾スト、入れ歯、口腔内環境、入浴、介護情報、転記、申し送り、引継、家族情報⇒「住所の情報がない」と、市の保健師と情報共有し意見あり。</p>

15:40	長野市保健所到着
18:00	<p>○長野市保健師ミーティング参加 進行役:保健師</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部から応援に来た保健師と担当避難所の紹介</li> <li>・本日の各支援チームの活動内容を報告</li> </ul> <p>内服薬の残薬がない方への対応:県の交通政策課に連絡しタクシーを配備し通院できるように調整</p> <p>段ボールベッドの需要が多いところに配布が少なく、需要が少ないところに多い配布となっている</p> <p>屋内環境の乾燥についてインフルエンザの流行懸念の報告</p> <p>指定外避難所から指定避難所への認可要望について確認</p> <p>仮設の保育所となったところに 50 名の子供が集まっている。明日は午前中の担当者の配置はあるが、午後は配置がない緊喫の課題である。保健師の配置が必要ではないかと提案あり。</p> <p>避難所に宿泊しない方向で支援を検討してほしい。</p>

### 3. 課題・所感

災害発生 6 日目になり始めて、長野県と長野市の災害対応の区分けが行われ、ミーティングを別に行い、参加チームの再構成の発表があった。長野市の保健所長はしきりに災害対応に慣れていないことを強調されていた。災害に慣れるということではなく、どんな災害であっても災害急性期の時期は情報が錯綜する中で状況判断を行うことが求められる。日本は水害による被害が多く発生する国であるため、今回の水害時対応を経時的に振り返る時間をもち、日本のどこでも災害発生前の備えの時期から命を守る行動を、一般市民向けに開発するし予測できる教材としてテロップやポスターを開発する必要があると考える。

避難所は、支援を行っていた看護師によりアセスメント項目があげられ、介入の必要性の優先度がつけられていた。看護師二人で 229 名の支援を行っており、避難所を利用する方皆さんの情報収集が十分できていない。今後、自治体の情報とリンクさせ、個人の情報を行政・支援者・避難所支援スタッフが共有し、個人に対する支援を多機関で継続的に提供できるかわかりが必要である。明日から厚労省派遣による愛知県の保健師さんが担当し情報収集が行われる。ボランティア支援者として参加するため、健康と生活支援で連携した活動ができるように関わりを持ち、避難所で生活する方中心の支援につなげていきたい。また、支援に参加する避難所の状況は自主防災組織がないため、市の運営スタッフと協力した活動で生活環境を整えていく必要がある。室温や湿度が測定された報告がない。気温の寒暖の差が出てくる時期でもある。避難所を利用する方の身体状況の変化を観察し異常の早期発見につなげていきたい。



写真1. 支援看護師から申し送りを聞く先遣隊



写真2. 避難所の状況